

# 多摩丘陵の固有植物？ハチオウジアザミについて

●2003年頃、八王子市内多摩丘陵で発見され、国立科学博物館 筑波実験植物園研究主幹の門田裕一博士により、2012年2月に新種として発表されたアザミです。

●ハチオウジアザミの学名は *Cirsium tamastoloniferum* Kadota. (キルシウム・タマ ストロニフェルム カドタ) といい、多摩に自生し、ストロン（地下走出枝）を出すアザミの意です。

## ●ハチオウジアザミの特徴

- ①タイアザミに似て花は横向き～點頭するが、頭花は狭筒型
- ②花序（花の集まり）はタイアザミの総状に対し円錐状となり、たくさんの頭花をつける
- ③総苞片は披針形で葉状、斜上から開出、稀に反り返る。先端は針状となるが、トネアザミほど長くない。総苞片は9-10列（タイアザミは8-9列）
- ④葉は切れ込みが浅く、全縁～中裂程度で葉の二次細脈が発達する（タイアザミは中裂～深裂で、二次細脈は発達しない）
- ⑤盛花時に、下部の葉が脱落して失われていることが多い
- ⑥水湿地に生育する
- ⑦染色体数はタイアザミの  $2n=68$  本に対し、ハチオウジアザミは  $2n=34$  本



上段：同じ親株の子孫毎に微妙に変異するハチオウジアザミの花の総苞片



ハチオウジアザミの花序の様子

タイアザミの花：総苞は太く、  
総苞片は長い



左：タイアザミ 右：ハチオウジアザミ



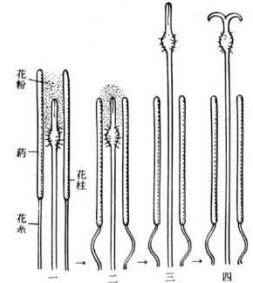
ハチオウジアザミの自生状況

## ●ハチオウジアザミとカガノアザミ群

ハチオウジアザミは、日本に80種類ほどあるアザミ属のうち、ナンブアザミ節カガノアザミ群というグループに属しています。カガノアザミ群は、全国の冷温帯（ブナ帯）を中心に生育する、地域毎に種分化が著しいアザミの一群です。山梨県から見つかри、奥多摩地域にも産するホソエノアザミが同じグループですが、門田博士は、カガノアザミ群には、まだ全国に新種発表がされていないアザミが多く残されていると考えています。

## ●アザミの特性と見分けるポイント

- ①多年草または二年草
- ②淡紫から赤紫色の花をつけ、葉にトゲがある
- ③北半球の温帯から寒帯にかけて300種が分布する
- ④日本には150種、そのうち145種が日本固有種（門田による）  
（タカアザミ、チシマアザミ、ヤナギアザミ、シマアザミ、カラノアザミ以外）
- ⑤日本の北から南まで、さまざまな環境に適応して種分化している  
（海岸↔内陸 草地↔森林 低地↔高山）



### ⑥アザミの花の受粉様式

- ・雌雄同株 Monoecy：両性花のみ
- ・雌性両全 Gynodioecy：両性花株＋雌性株

### ⑦集葯雄ずいで雄ずいが先熟

- 【葉】 ★開花時に根生葉が残っているか？ ★形や大きさ、切れ込みの深さは？  
★葉の基部は茎を抱いているか、いないか？
- 【花】 ★頭花の大きさと向き？（上向き／横向き／下向き）  
★大きさと形は？（椀形／広鐘形／鐘形／狭筒形）
- 【総苞】 ★総苞片の列の数は？ ★総苞は粘るか粘らないか？  
★総苞片の伸びる方向は？（圧着／斜上／反曲）

「ハチオウジアザミが属する、ナンブアザミ節カガノアザミ群の特性」

1. 根生葉は開花期に脱落している
2. 頭花は點頭する
3. 総苞は狭筒形
4. 染色体数は  $2n=2X=34$  の二倍体種
5. 多くの種がブナ帯に分布している
6. 本州で著しい種分化をおこしている

## ●八王子市内でこれまでに確認されているアザミ属植物

モリアザミ（現状不明）、フジアザミ（現状不明）、ノアザミ、ノハラアザミ、キセルアザミ（絶滅）、タイアザミ、ホソエノアザミ、アズマヤマアザミ、タカアザミ、ハチオウジアザミ

## ●ハチオウジアザミの自生地について

ハチオウジアザミが発見された場所は、八王子市内の多摩丘陵南西部の宇津貫町の谷戸ですが、相模川流域である神奈川県綾瀬市の湿地などからも同様のアザミが見つかっています。また、その後の調査により、日野市神明や三沢地区などに新たな産地が見つかり、八王子市内でもよく似たアザミの生息地が報告されているのですが、神奈川県のものも含めて染色体数の調査が進んでいないため、実態は未解明のままとなっています。なお、最初の発見地である八王子市宇津貫町の湿地は地権者が変更するなどして自生地の存続が危ぶまれているため、長池公園では、自生地の開花株より種子を得て、自然館中庭で一般の皆様公開保全しています。

（文責 長池公園自然館 内野秀重 2020.9.22）